



まちの魅力  
×  
エンタメ  
コンテンツ

# SANKYO

## 地域連携 プロジェクト

— エンタメでまちを"一緒"に盛り上げる —

# コンテンツ

3. SANKYO地域連携プロジェクトとは
4. 実施事例 まちぶん in 鹿児島県伊佐市
6. 実施事例 まちぶん in 那須野が原
8. 実施事例 佐賀県玄海町  
イメージイラスト・小説コンテスト
10. 実施事例 ビートルバトラー カブ闘士 タイアップ  
鹿児島県大崎町
12. メニューのご案内/Q & A

# SANKYO地域連携プロジェクト

— エンタメでまちを"一緒"に盛り上げる —

SANKYO地域連携プロジェクトとは  
まちの魅力と私たちSANKYOが  
企画する小説・漫画・アニメなどの  
エンターテインメントコンテンツを掛け合わせ  
地域の活性化に取り組むプロジェクトです。



地域で盛り上げていきたい観光名所、特産物などを  
SANKYO独自の切り口でご予算に応じた  
様々なPR手段をご提案いたします。

お気軽にお問い合わせください。



## 実施事例

# まちぶん



# まちぶん in 鹿児島県伊佐市

2018年、市制10周年を迎えた鹿児島県伊佐市とともに、その記念プロジェクトとして実施したのが「まちぶん in 鹿児島県伊佐市」です。同市が力を入れている“文学”をキーワードに魅力あふれる観光資源

を活かした小説の公募や、地元の学生・子どもたちを対象とした小説の書き方ワークショップなどをSANKYOが企画・立案し、実施することになりました。

### ■ 市を舞台とした小説コンテストを開催

文学に力を入れている伊佐市の魅力を活かした企画「まちぶん」を立案し提案しました。「まちぶん」の核となるのは小説の公募です。人気小説投稿サイト「エブリスタ」とコラボして伊佐市が舞台となる小説を全国から公募しました。

### ■ ハイクオリティな特設サイトで注目度アップ

伊佐市の魅力を伝えつつ、小説コンテストの応募数増加を図る取り組みの一環として特設サイトを構築。市外に住む方でも具体的なイメージで小説を創作しやすいように、伊佐市の美しいロケーションを写真とテキストで6編の物語風に紹介しました。

**概要**

鹿児島県伊佐市 × SANKYO × エブリスタがコラボして市制10周年を迎える鹿児島県伊佐市を舞台にした作品を募集するプロジェクト！

ダムの中に沈み夏の時季にしか現れない「曾木発電所遺構」・滝壺「二ノメートルという巨大な「曾木の滝」、最古となる焼酎の文字が大工の落書きとされる「郡山八幡神社」普通のようで普通じゃない、少し不思議で魅力的な街——伊佐市を舞台に作品を書いてみませんか？

鹿児島県伊佐市

**01 十曾・布計エリア**  
“自然”と“懐かしさ”を感じるエリア  
『鹿児島県北海道』とも呼ばれる伊佐市の中でも特に寒い地域にある布計は、冬に訪れるのが出来る程の気温までです。また、布計小学校は廃校した昭和54年にタイムスリップしてしまっただけの懐かしさを感じる。  
十曾には沢谷や池に近接するキャンプ場があり、五右衛門風呂から星望日本一にも輝いた満天の星空を堪能することが出来る。

**02 大口エリア**  
“歴史”と“日常”を感じるエリア  
伊佐が焼酎の産地と言われる由縁となった日本最古の「焼酎」の文字が記録されている「郡山八幡神社」。軍町及び城山形式の手法と焼酎建築の情景が強く加味された本殿は国の重要文化財にも指定されている。神社入口には焼酎敷刻をきっかけに何故か反対に設置された石王様も……。また、「歴史公園」ではゆかに通ずる事が出来、春になると満開の桜が公園全体を覆うお花見スポットになっている。

**03 曾木エリア**  
“迫力”と“神秘”を感じるエリア  
滝壺21メートルを誇り東洋のナイアガラと呼ばれる「曾木の滝」。訪れた人々を釘付けにする程の迫力があることながら、紅葉や雪化粧をした四季折々の姿も見どころの一つ。ダムの貯水量に応じて姿が変わる「曾木発電所遺構」。満水期の初夏から秋にかけて観れる全貌も、冬から春の間で観れる水に沈んでいる姿も神秘的に感じる。

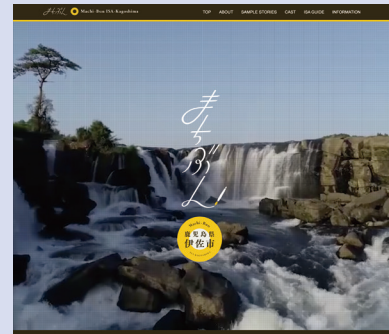
**04 菱刈・湯之尾エリア**  
“期待”と“夢”を感じるエリア  
2020年に実施されるかごしま国体でカヌー競技の会場にもなる『伊佐市菱刈カヌー競技場』は、国内でも高水準の立地条件にあり、カヌーSUIPをはじめ、ドラゴンボートレース『伊佐ドラゴンカップ』も毎年開催されている。  
また、日本で最も金を産出している『菱刈鉱山』があり、近隣には鉱山から湧き出る源泉を有効活用した湯之尾温泉浴場が立ち建ち。

### ■ 地元の小中高生対象のワークショップを実施

全国からの小説公募だけではなく、創作の楽しさや作家・編集者という仕事への興味を持ってもらうため、市内の小中高生に対して、小説の書き方をテーマとしたワークショップを実施。ワークショップの講師は、小説創作のノウハウを持つエブリスタとSANKYOの担当者が務めました。



企画名:まちぶん in 鹿児島県伊佐市  
実施時期:2018年  
募集内容:伊佐市を舞台にした小説  
応募作品数:約250作品  
展開場所:Webサイト・映像化  
URL:machibun-isa.s-contents.jp



# 担当者インタビュー まちぶん in 鹿児島県伊佐市

## ■ まちの特長をリサーチ

私たちの取り組みのパートナーとなる自治体を探中、紹介を通じて候補に挙がったのが鹿児島県伊佐市でした。関心の有無をうかがったところ、「お互いが相乗効果を得られるような取り組みであれば、ぜひ一度お話をうかがいたい」というお返事をいただきました。最初の顔合わせは2017年

## ■ 市を舞台とした小説コンテストを開催

私たちが提案したのは、「まちを文学の力で盛り上げよう」をコンセプトに伊佐市を舞台にした全国からの小説公募と、地元学生に向けた小説創作ワークショップを実施するプロジェクトでした。「まちぶん」と名付けられたこのプロジェクトは、提案の翌年の2018年が伊佐市 市制10周年の節目の年であったこともあり、市制10周年記念事業として本格的にスタートすることになりました。なお、全国の小説クリエイターへの情報発信には、プロジェクトのパートナーである株式会社エブリスタが運営する国内最大規模の小説投稿サイトを活用。2018年8月末の締切日までの応募作品の総数は約250作品。大賞には特別な能力を持つ三姉妹の日常を描いたファンタジー「伊佐の穢い屋三姉妹『オルゴールの城』」(ふにやたらうさん)が選ばれました。



まちぶん in 鹿児島県伊佐市 Webサイトより

## ■ 小説の書き方をテーマにワークショップを実施

全国からの小説公募だけでなく、伊佐市内においても文学に触れるきっかけや創作の楽しさ、作家・編集者という仕事へ興味を持ってもらうため、市内の小中高生を対象に小説の書き方をテーマとしたワークショップを実施しました。学校の授業時間の1コマを使って実施したこのワークショップには、物語の創作に関してノウハウを持つエブリスタの担当者とSANKYOの担当者が講師として登壇。書き方を教えるだけでなく、学生自身が短編小説を書き、発表までを行うというワークショップの内容は実施後のアンケートで、教員の88%が「とても満足」「満足」と回答、参加した生徒の92%が「とても楽しかった」「楽しかった」と回答し、高い評価をいただきました。



「伊佐の穢い屋三姉妹」|ショートフィルム|まちぶん伊佐

秋のこと。そこから私たちの取り組みが本格的にスタートしました。リサーチを進める中、浮かび上がったのは、小説「西郷隆盛」「天と地と」などで知られる小説家 海音寺潮五郎氏、バスケットボール漫画「スラムダンク」や剣豪宮本武蔵を描いた「バガボンド」で知られる漫画家 井上雄彦氏というストーリーテラーを育んだまちの特長でした。



伊佐の穢い屋三姉妹「オルゴールの城」

## ■ ハイクオリティな特設サイトで注目度アップ

「まちぶん in 鹿児島県伊佐市」の周知を図る取り組みの一環として、私たちは特設サイトを構築。伊佐市の観光資源をPRするとともに、市外に住む方でも具体的なイメージで創作しやすいように、ダムの中に沈み水位が下がる夏の時季にしか現れない曾木発電所遺構や、滝幅210メートルの巨大な曾木の滝、大工の落書きとされる最古の「焼酎」の文字が見つかった郡山八幡神社、歴史ある焼酎蔵などを6編の物語風に紹介。俳優をキャストして現地撮影した映画のワンシーンのような写真と、小説の一節のようなテキストで構成されたサイトデザインは高く評価され、広告・クリエイティブ専門誌「ブレン」にも誌面掲載されました。



## ■ 小説コンテスト大賞作品を映像化

2019年度には、小説コンテスト大賞作品『伊佐の穢い屋三姉妹』のメディアミックス企画として、映像化プロジェクトを進行。SANKYOが制作を全面的に請け負う形で行われました。約20分のショートフィルムは、受賞経験もある映画監督の速水雄輔氏を起用。また俳優だけではなく、30~40名の市民の方々にボランティアで出演いただきました。伊佐市の美しいロケーションで撮影されたハイクオリティな映像とストーリーはYouTubeなどで公開されて大きな注目を集めるだけでなく、専門誌などからも高く評価されました。

## 実施事例



# まちぶん in 那須野が原

2018年、栃木県にある4つの自治体(那須塩原市、矢板市、大田原市、那須町)にまたがる地域「那須野が原」は日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」として認定されました。日本遺

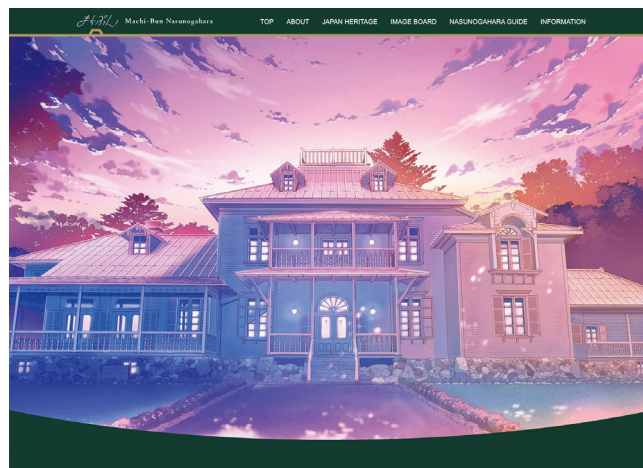
産の特徴でもある「ストーリー」に着目し、地域を舞台とする小説公募や小説創作ワークショップなどを行う企画「まちぶん」をSANKYOが提案・実施。那須野が原の地域PRに貢献しました。

### ■ 日本遺産のストーリーをテーマに小説を募集

民間企業・自治体の交流イベントで「まちぶん in 鹿児島県伊佐市」を紹介したことがきっかけで、企画提案が実現しました。「まちぶん」の核となる企画は小説の公募です。人気小説投稿サイト「エブリスタ」とコラボして日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」をテーマとした小説を全国から公募しました。

### ■ ハイクオリティな特設サイトで注目度アップ

この企画の周知を図る取り組みの一環で特設サイトを構築しました。日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」を知らなくても小説創作のイメージが湧くように、オリジナルのイラストを制作し紹介しました。



### ■ 地元の高校生対象のワークショップを実施

全国からの小説公募とあわせて地元の高校生に対する日本遺産のPRや、物語創作へ興味を持ってもらうため、小説の書き方ワークショップを実施しました。講師は小説創作のノウハウを持つエブリスタとSANKYOの担当者が務めました。



企画名:まちぶん in 那須野が原

実施時期:2019年

募集内容:イラストによる10をテーマにした小説

応募作品数:約110作品

展開場所:Webサイト

URL:machibun-nasunogahara.ss-contents.jp/



# 担当者インタビュー まちぶん in 那須野が原

## ■ 日本遺産サミットへの参加

私たちは、お付き合いのある企業から打診を受け、2018年9月に富山県で実施された「日本遺産サミットin高岡」に民間企業の一社として参加しました。日本遺産サミットでは、日本遺産に登録された地域の紹介や特産品の販売、体験型ワークショップなどの他、自治体の担当者と民間企業との交流会も行われ、そこでSANKYOのこれまでの取り組みを自治体の皆さまにご紹介しました。

の販売、体験型ワークショップなどの他、自治体の担当者と民間企業との交流会も行われ、そこでSANKYOのこれまでの取り組みを自治体の皆さまにご紹介しました。

## ■ プロジェクトスタートのきっかけ

「日本遺産サミットin高岡」でお会いし、SANKYOの取り組みをご紹介したことがきっかけで「那須野が原開拓日本遺産活用推進協議会」(以下、協議会)のご担当者様から連絡があったのは、2019年2月のことでした。日本遺産(Japan Heritage)とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。2022年、全国に点在する日本遺産は、104のストーリーが認定。文化庁では、日本遺産のストーリーを認定するだけにとどまらず、認定した魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取り組みを支援しています。栃木県にある4つの自治体(那須塩原市、矢板市、大田原市、那須町)にまたがる日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」は、2018年に「STORY #058」として認定されました。協議会は、この日本遺産のストーリーに関連した歴史や文化遺産を整備・活用し、地域活性化を推進することを目的としています。



日本遺産 ポータルサイト



まちぶん in 那須野が原Webサイトより

## ■ 「まちぶん」による地域活性化の提案

協議会様は、日本遺産サミットで説明を行った「まちぶん in 鹿児島県伊佐市」に大変興味を持たれていましたが、同様の内容で実施をする場合、プロポーザルでの提案上限額を大幅に上回ってしまう事から予算を圧縮するために企画を再考しました。

企画の柱は、小説を公募する「まちぶん」と専用のWebサイトの制作、そしてワークショップの実施と変更することなく、費用負担の大きいロケ地での撮影を取りやめ、代わりに日本遺産にまつわるストーリーをイラストでビジュアル化する案としました。この企画案で、2019年6月～7月に実施されたプロポーザルに挑みました。

## ■ イメージイラストを制作し小説を全国から公募

プロポーザルの結果、私たちの提案が採用されました。日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」には、国や県、そして市が指定する文化財が多数含まれています。また、文化財があるロケーションも都市部から山間部まで広域にわたります。その中から公募に参加される方の創作意欲を掻き立てるような10のテーマを選び、イメージイラストを制作しました。イラストを掲載する専用サイトを制作し、プロジェクトのパートナーである株式会社エブリスタが運営する小説投稿サービスを活用して、全国からの小説作品募集がスタートしました。



まちぶん in 那須野が原Webサイト

## ■ 日本遺産のPRに「まちぶん」が貢献

投稿された小説の審査には、小説家であり「那須塩原まちづくり大使」でもある森 詠氏をはじめ、矢板市、大田原市、那須町にゆかりある方々にお願いしました。2019年12月に設定した締切日までの応募作品の総数は約110作品。一次審査を経て、最終的に3作品が入選し、副賞が贈られるとともに作品を掲載した記念冊子が県内の図書館や道の駅などに配布されました。このプロジェクトの取り組みによって、日本遺産について知らなかった県内外のユーザーに対して、普及啓発を促すことができたとの評価をいただきました。特に地域にお住まいの大勢の皆さまに日本遺産「明治貴族が描いた未来～那須野が原開拓浪漫譚～」を認識いただけたことは、協議会の目指すところであり、結果に大変満足しているとのコメントをいただきました。



「エブリスタ」の小説投稿サービスを活用

## ■ 高校生を対象としたワークショップを実施

プロジェクトがスタートし、「まちぶん」による小説公募を実施している期間中に県内の高校生を対象に小説の書き方をテーマにしたワークショップを実施しました。協議会から文学に興味のある学生に向けて実施したいとの要望があり、趣旨に賛同していただいた高校4校の他、栃木県高等学校文化連盟文芸部会でのワークショップが実現しました。講師は小説創作のノウハウを持つエブリスタとSANKYOの担当者。参加した学生が実際に短い物語を創作して発表までを行うワークショップは、教員と生徒双方から高く評価されました。参加した生徒の約半数の49%が日本遺産についての知識はなかったのですが、91%が「とても興味があった」「興味があった」と回答しました。また、74%の生徒が小説を「書いてみたい」「やや書いてみたい」と回答し、将来につながるイベントとなったようです。



## 実施事例



# 佐賀県玄海町イメージイラスト・小説コンテスト

### ■ イラスト・小説コンテストを同時開催

地域を舞台とした小説の公募企画「まちぶん」の取り組み、実績を見て興味を持っていただいた玄海町から打診を受け、プロジェクトがスタートしました。これまでの「まちぶん」は、小説作品のみの公募企画でしたが、玄海町との取り組みでは、より多くのクリエイターへの認知拡大、相乗効果による話題性を考慮し、投稿サービス「pixiv」とコラボしたイラスト及び小説の同時公募企画を提案・実施しました。

### ■ 小説大賞作品をSANKYOがコミカライズ

コロナ禍の中で行われたこのプロジェクトでは、まん延防止の配慮から、コンテストの告知から応募、審査に至るまで極力インターネットのみで完結する案を提案しました。その提案通り安全にコンテストの審査が行われ、大賞作品が決定。小説の大賞作品は、SANKYOと一三書房社が運営する漫画レーベル「コミックポルカ」と玄海町HPに読み切り漫画として掲載されました。



イラストコンテスト  
大賞作品（部門共通）  
「棚田に吹く風」  
西廻り



小説コンテスト大賞作品  
「春秋秋思の恋の果て。」  
雪月海桜



企画名: 佐賀県玄海町イメージイラスト・小説コンテスト

実施時期: 2021年

募集内容: 佐賀県玄海町を舞台にしたイラストまたは小説

応募作品数: イラスト221作品 小説231作品

展開場所: Webサイト

URL: イメージイラストコンテスト

[https://www.pixiv.net/contest/saga\\_genkai town](https://www.pixiv.net/contest/saga_genkai town)

イメージ小説コンテスト

[https://www.pixiv.net/novel/contest/saga\\_genkai town](https://www.pixiv.net/novel/contest/saga_genkai town)

受賞作品は  
佐賀県玄海町のPRに使用!

豪華特産品  
も贈呈!

佐賀県玄海町イメージ  
イラストコンテスト

2021年7月30日 9月11日 23:59

▼「佐賀県玄海町」とは

佐賀県の北部に位置し、海、山、川がある自然がいっぱいの観光地でもあります。  
四季を通して様々な風景を鑑賞することができる玄海町では、温泉、漁業、畜産が盛んです。玄海町産の新鮮な産物や「産物」、「産物」などの特産品が、玄海町の人口より多い観光客に喜ばれるほど好評に消費されています。「産物」、「産物」などの特産品です。  
また、「他人の幸福」が日本の精神の根幹をなしている「民衆の幸福」では、玄海町産の大賞品が全国の消費者に喜ばれるほど好評に消費されています。「産物」、「産物」などの特産品です。  
海と山と夕陽の輝きや手紙が伝わる風景は記憶の宝庫へ送られます。

大賞作品は賞金50万円+  
コミックポルカで読み切り短編漫画化!

豪華特産品  
も贈呈!

佐賀県玄海町イメージ  
小説コンテスト

2021年9月17日 10月31日 23:59

▼「佐賀県玄海町」とは

佐賀県の北部に位置し、海、山、川がある自然がいっぱいの観光地でもあります。  
四季を通して様々な風景を鑑賞することができる玄海町では、温泉、漁業、畜産が盛んです。玄海町産の新鮮な産物や「産物」、「産物」などの特産品が、玄海町の人口より多い観光客に喜ばれるほど好評に消費されています。「産物」、「産物」などの特産品です。  
また、「他人の幸福」が日本の精神の根幹をなしている「民衆の幸福」では、玄海町産の大賞品が全国の消費者に喜ばれるほど好評に消費されています。「産物」、「産物」などの特産品です。  
海と山と夕陽の輝きや手紙が伝わる風景は記憶の宝庫へ送られます。



# 担当者インタビュー イメージイラスト・小説コンテスト in 佐賀県玄海町プロジェクト

## ■「まちぶん」との出会いがつかない縁

佐賀県の東松浦半島の中央に位置する玄海町。町名は玄界灘の別名である「玄海」に由来しているそうです。「浜野浦の棚田」がとくに有名で、水平線に沈む夕日が棚田と海面とをオレンジ色に染める幻想的な風景には圧倒されます。かねてより玄海町では歴史的な景観などを題材にした小説を創作して、「まち」の知名度アップに活用したいと検討する中、役場の職員が小説公募について調査していくうちに、SANKYOが実施した「まちぶん in 鹿児島県伊佐市」と「まちぶん in 那須野が原」を見つけ興味を持っていただきました。



玄海町役場HPより



## ■ 社会的な困難の中で実施方法を模索

玄海町の職員が伊佐市と那須塩原市に問い合わせたうえで、SANKYOに連絡をいただいたのは、2021年新春のことです。その頃は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のまん延が人々の想像以上に拡大しており、出口の見えないパンデミックの真っ最中でした。「まちぶん」では、観光名所や日本遺産などを現地取材し、映像化やイラスト化することで、小説の創作意欲を掻き立てて小説の募集につなげるというねらいがあります。しかし、コロナ禍においては玄海町の皆さんや制作スタッフの安全を考慮すると、実施の手法は変えるべきであると判断しました。

## ■ 完全非接触の公募企画を模索

コロナ禍の中で、これまで以上の応募が期待できる施策という難題に突き当たります。そこで糸口となったのは、ピクシブ株式会社の創作活動を中心とした投稿サイトの「pixiv」と連携して、まちをテーマとする小説とイラストを公募する案です。2007年にスタートしたpixivは、プロジェクト開始当時

の登録者数が6000万人※を突破し、投稿サイトとしてのPR力やイラスト・小説の公募の運営についても申し分ありません。また、大賞作品の漫画化を副賞にすることで、公募に付加価値が付くのではないかと考えました。漫画の発表は、SANKYOと一三書房による共同コミックレーベルの「コミックボルカ」で掲載するという企画を中心に具体化していきます。

※2022年現在では、7100万人を超えるユーザーが登録しています。

## ■ 小説とイラストの同時募集で相乗効果を

pixivはこれまで多数の公募を実施しており、中でもイラストの公募には定評があります。小説の公募だけでなく、イラストと小説の公募を同時に行うことで、他の公募企画との差別化や相乗効果が見込めると考えました。pixivと連携した小説とイラストの公募を活用し、玄海町の魅力を伝え知名度の向上を図る。また、コロナ禍であっても安心・安全な実施を目指すことをまとめた企画書でプロポーザルに参加しました。その結果、企画の主旨をご理解いただき私たちの提案が採用され、玄海町との連携プロジェクトがスタートしました。

pixivの専用ページと役場のWebサイトを中心にイラスト・小説の公募を展開し、まん延防止の配慮から、郵送での応募は受け付けず、インターネットでのみ受け付けました。



佐賀県玄海町イメージイラストコンテスト



佐賀県玄海町イメージ小説コンテスト



大賞作品 (部門共通) げんかい名所部門 大賞作品 恋人の聖地部門 大賞作品



小説大賞作品『春愁秋思の恋の果て。』(左:原作 右:漫画)

## ■ 大賞作品が決定! コミカライズ作品を掲載

2021年9月上旬の締切日までのイラスト応募作品の総数は221作品。最終選考員にて協議を行っていただき受賞候補作品を選定しました。そして大賞と部門賞、佳作8作品が決定しました。小説の公募は、2021年10月末の締切日までの応募作品の総数は231作品。「コロナ禍による外出の自粛により、創作活動が盛んだった」「副賞のコミカライズは、他の公募にはなく魅力的だった」という理由もあり、数多くの応募がありました。審査は、講談社『小説現代』編集長 河北氏に協力をいただきながら、コミックボルカ編集部、玄海町役場にて実施。大賞は『春愁秋思の恋の果て。』(雪月海桜さん)が選ばれました。その後、コミカライズは順調に進み、2022年3月にコミックボルカと玄海町HP、pixivコミックなどに読み切り漫画として掲載されました。

## ■ 新たな挑戦と経験が玄海町の財産に

公募の入賞作品は、玄海町のPR素材として活用される予定です。小説の公募だけでなく、イラスト公募や大賞小説作品のコミカライズまで行っ

たことで、幅広い年代に対する玄海町のアピールになったと高評価をいただきました。

## 実施事例



# ビートルバトラー カブ闘士 タイアップ 鹿児島県大崎町

鹿児島県大崎町で子どもたちに大人気のイベント「カブト虫相撲大会」を元にSANKYOがオリジナルキャラクター「ビートルバトラーカ

ブ闘士」を制作。オフィシャルガイドブックやスタンプラリー、グッズ等でイベントを盛り上げ、地域のPRに貢献しました！

### ■ まちの名物行事の魅力を発信

カブトムシをクヌギの切株の土俵上で戦わせるカブト虫相撲大会。毎年数百人を超える子どもたちが参加し、まちの名物行事の一つになります。そのカブト虫相撲をテーマにしたオリジナルキャラクターをSANKYOが制作。地元の人気イベントをさらに盛り上げるお手伝いをしました。

### ■ SANKYOがキャラクターを制作し、コンテンツを展開

空前のカブト虫相撲ブームが起きている架空世界で、カブトムシと心を通わせて戦うことができる子どもたち(ビートルバトラー)を主人公としたWebコミックやショートアニメを展開しました。



【ビートルバトラー カブ闘士】 鹿児島県大崎町 第30回カブト虫相撲大会



### ■ 自治体間の連携企画にも活用

九州にはカブトムシの巨大モニュメントが鹿児島県大崎町の他、大分県佐伯市、長崎県平戸市にあり、2019年に開催された3カ所のモニュメントを巡るスタンプラリーでは、私たちが開発した「ビートルバトラーカブ闘士」がビジュアルイメージとして活用されました。

企画名:ビートルバトラー カブ闘士

カブト虫相撲大会タイアップ 鹿児島県大崎町

実施時期:2019年、2021年

募集内容:カブト虫相撲大会

展開場所:Webコミック・アニメ化

URL:<https://beetlebattler.s-contents.jp/>



# 担当者インタビュー ビートルバトラー カブ闘士

カブト虫相撲大会タイアップ 鹿児島県大崎町

## ■ まちの特長をリサーチ

鹿児島県東南部、大隅半島の東側に位置する曾於郡大崎町とのプロジェクトは、お付き合いのある企業の紹介を通じて、私たちのコンテンツ連携による地域活性化の企画に興味を持ってくださったことがきっかけでスタートしました。「まち」の知名度向上に寄与できるコンテンツを企画する際に、大崎町の道の駅にある巨大なカブトムシのモニュメントと30回開催されているカブト虫相撲大会に着目しました。



7月22日に鹿児島県大崎町で行われたカブトムシ相撲大会の様子をレポートするよ

【ビートルバトラー カブ闘士】鹿児島県大崎町第30回カブト虫相撲大会  
カブト虫相撲大会のレポート



道の駅 くにの松原おおさきにある巨大なモニュメント

## ■ カブトムシを題材にまちの認知度向上へ

持参したカブトムシをクヌギの切株の土俵上で戦わせるカブト虫相撲大会は、毎年7月下旬に開催され、夏休みをふるさとで過ごす子どもを含め、毎年数百人を超える子どもたちが参加し、まちの名物行事の一つになっていました。インパクトのあるモニュメント、多くの参加者がいるカブト虫相撲大会をフックにしたコンテンツで大崎町に貢献できると考えました。

## ■ キャラクターコンテンツの制作

大崎町の特徴でもあるカブトムシを活かしたオリジナルのキャラクターコンテンツ開発を行い、それを活用した大会支援と「まち」の認知度向上を狙うタイアップ企画は、関係各所から好評を得て取り組みを開始しました。

大会支援では、コンテンツの漫画配布やキャラクターバッグの配布など参加特典の拡充、トーナメントの早い段階で負けてしまった参加者を対象にしたスタンプラリーの実施を行い、会場と隣接する道の駅を結ぶ動線を設定し、まちの特産品を知ってもらう施策などを行いました。

キャラクターのコンテンツ展開は、Webを中心に漫画展開やショートアニメ展開、実写のカブト虫相撲動画など、子どもを中心に誰もが楽しめるコンテンツを提供しました。



ビートルバトラーカブ闘士のWebサイト



【ビートルバトラー カブ闘士】激闘ムービー11 ヘレスオオカブトVSアケティオンゾウカブト  
世界のカブトムシの激闘ムービー

## ■ 自治体間の連携にもキャラクターを活用

コンテンツを活用した施策が高い評価を得たことがきっかけとなり、2019年に実施された九州のカブトムシの巨大モニュメントを結ぶスタンプラリー（鹿児島県大崎町、大分県佐伯市、長崎県平戸市）では、私たちが開発したキャラクターがビジュアルイメージとして活用されました。コンテンツ開発も好調で、YouTubeにアップロードした世界のカブトムシの激闘ムービーは100万再生を超えるコンテンツもあります。

## ■ カブト虫相撲をオンライン開催

30回以上実施されているカブト虫相撲大会は、コロナ禍に伴い2020年以降中止を余儀なくされています。こうした状況に対応し、2021年にはキャラクターたちが登場するカブトムシ塗り絵ゲームを利用した、オンラインバトル形式で大会が開催されました。自宅に郵送されるカブトムシの塗り絵に参加者が色を塗って名前をつけて返送し、塗り絵を反映したカブトムシがバトル画面で自動対戦するというのがオンライン大会の流れ。全国の子どもたちがオンラインでカブト虫相撲に参加しました。



社会福祉法人 愛生会 オンラインカブト虫相撲大会【予告】  
オンラインカブト虫相撲大会の予告動画

## ■ 地域連携プロジェクトが目指すもの

遊技機業界において、漫画やアニメ、ゲームなど、著作権のあるコンテンツとのタイアップは新たなファン獲得に大きな意味を持ちます。こうした中、私たち事業企画部がミッションの一つとして掲げるのがSANKYO独自の知的財産(IP)創出です。その方法論の一つとして着目したのが、自治体様とのコラボレーションでした。大崎町との協業では、カブト虫相撲という資

産を活用したオリジナルコンテンツ開発が私たちのベネフィットです。一方、自治体様においては、ご当地キャラの展開は制約も多く、せっかくのキャラクターの魅力発信に至らないケースが少なくありません。ビートルバトラーカブ闘士では、私たちのIP創出ノウハウに基づき開発したキャラクターを自治体様が利用するというスキームが成立しています。

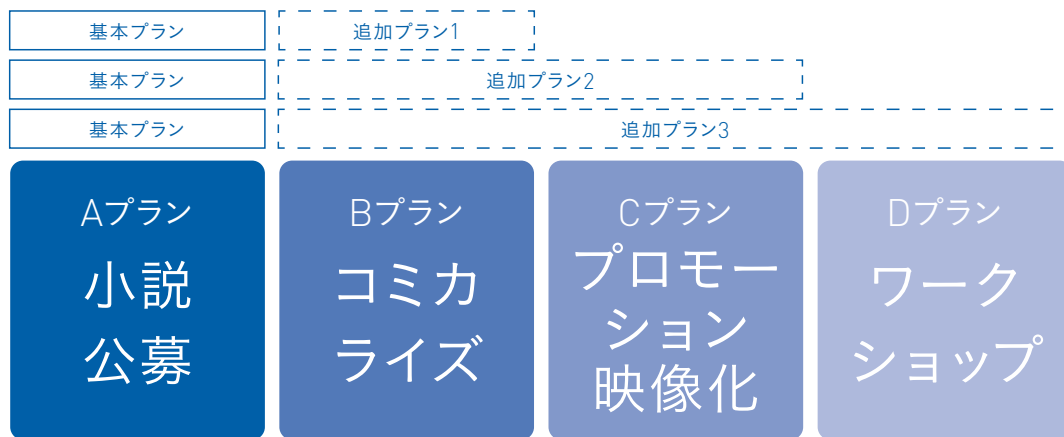


## メニューのご案内

小説やコミック、キャラクターの創作や映像化など、様々なエンターテインメントコンテンツの組合せを自由に行えます。

基本プランは、地域をテーマに据えた小説の公募です。小説からのコミカライズはもちろん、プロモーション映像化などを組合せることができます。

また、テーマに応じたキャラクターの創作やメディアへの展開なども可能です。



※基本プランには、実施の募集告知から、作品の選定、結果の告知、Webサイトの構築などが含まれます。

ワークショップでは、地域の子どもたちとエンターテインメントの現場体験ができ、創作活動のきっかけになると大変好評です。

「小説の書き方」「まんがの描き方」など、子どもたちが興味を持ちやすい

テーマを用いた参加型イベントは、将来、地域を担う人材の育成としても期待できます。

小説の公募企画以外にもご要望をうかがいながら企画検討が可能です。ぜひお気軽にお問い合わせください。

## Q & A

SANKYO地域連携プロジェクトに関するQ&Aを掲載しました。  
下記Q&Aで解決しない場合はHPのお問合せフォームにてお問い合わせください。



**Q** SANKYO地域連携プロジェクトとは、何ですか？

**A** 株式会社 SANKYOの事業企画部が取り組んでいるコラボレーションプロジェクトです。全国の自治体や地域の皆さまのご要望にSANKYOが得意とするオリジナルコンテンツの開発力を提供することで、観光資産のPR、ブランド力の向上のお手伝いをしています。

**Q** これまでにどのような連携プロジェクトがありましたか？

**A** 地域の観光資産や歴史などを題材とした小説を募集する「まちぶん」や美しいロケーションを借景にまちの魅力を表現したPR動画制作などを行いました。また、イベントと連動しオリジナルキャラクターを創出、各種グッズ制作などを行うことで、イベント自体の活性化や認知度の向上に貢献いたしました。

**Q** 広告代理店やイベント会社などの違いはありますか？

**A** SANKYOでは長年培ってきたエンターテインメントの分野にて、独自の知的財産(IP)創出が可能です。また、小説公募でのノウハウやイラスト制作、コミカライズなどを組合せることで、皆さまの地域の魅力を分かりやすく発信のお手伝いができます。

**Q** やりたいことが明確ではないのですが大丈夫ですか？

**A** スタッフとのディスカッションにて、ご要望をうかがいながら進めてまいります。その中から皆さまの地域の魅力を独自の知的財産(IP)として創出するご提案をさせていただきます。

**Q** あまり予算がないのですが頼めますか？

**A** まずは、ご予算の範囲内で可能な施策をご提案いたします。提案資料をご検討いただき、連携プロジェクトの実施をご判断ください。



# SANKYO地域連携プロジェクト

— エンタメでまちを"一緒"に盛り上げる —